



カケハシ・プロジェクト（米国） 若手研究者招へい第2陣 プログラム概要の記録

1. プログラム概要

【目的】米国のコーネル大学、ジョージ・ワシントン大学、ジョンズ・ホプキンズ大学やシンクタンクの若手研究者が来日し、ホームステイや学校交流、視察等を通じて日本文化や社会、歴史について理解を深めるとともに、参加者同士が交流を深めてネットワークの強化を図り、研究者の立場から日本の魅力を積極的に対外発信してもらうことを主目的として実施しました。

【参加者】米国若手研究者 計 17 名

ニューヨーク州 コーネル大学 5 名

コロンビア特別区 ジョージ・ワシントン大学 4 名

メリーランド州 ジョンズ・ホプキンズ大学 6 名

シンクタンク関係者 2 名

【訪問地】東京都、福島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

1 月 25 日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明
渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等

来日までの指定期間 【動画視聴】講義「日本と国連」、日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

1 月 30 日（火曜日） 羽田空港より入国

1 月 31 日（水曜日） 【視察】東京国立博物館

【視察】パナソニックセンター東京

【ブリーフィング】外務省北米局日米安全保障条約課・日米地位協定室

2 月 1 日（木曜日） 【日本文化体験】手ぬぐい絞り染体験

【意見交換・講義】「ソフトパワーとパブリックディプロマシー」

講師：慶應義塾大学 環境情報学部 教授 渡辺 靖 氏

2 月 2 日（金曜日） 東京都から福島県へ移動

【学校交流】会津大学

2 月 3 日（土曜日） 【ホストファミリー対面式】

【ホームステイ】会津町

2 月 4 日（日曜日） 【ホストファミリー歓送会】

【視察】大内宿

【ワークショップ】 報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

2月5日（月曜日） 福島県から東京都へ移動

【報告会】 訪日成果・帰国後の活動計画発表

2月6日（火曜日） 【視察】 都内自由視察
羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
1月30日【視察】東京国立博物館	1月31日【視察】パナソニックセンター東京
	
1月31日【ブリーフィング】外務省北米局 日米安全保障条約課・日米地位協定室	2月1日【日本文化体験】手ぬぐい絞り染体験
	
2月1日【意見交換・講義】 「ソフトパワーとパブリックディプロマシー」 慶應義塾大学 教授 渡辺 靖 氏	2月2日【学校交流】会津大学

	
2月3日【ホームステイ】	2月4日【ホストファミリー歓送会】
	
2月4日【視察】大内宿	2月5日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

今回のカケハシで印象に残ったのは、ホームステイ、外務省訪問、そして学校交流です。特にホームステイでは、他の訪日プログラムでは決して学ぶことができなかった日本文化を実際に一部体験し学ぶことができました。ホストファミリーの家に滞在して、私は日本の地方での生活、農業、農村の政策課題について学び、都市部から離れて暮らすことがどのようなものなのかを理解することができました。彼らのおもてなしと優しさに感謝し、このような機会を与えてくれたことにとても感謝しています。また、安全保障政策や外交に関心を持つ者として、今回の外務省訪問は非常に印象深いものでした。最後に、東京と会津の大学で、教授や学生の意見を聞くことができ、大変有意義でした。

◆ 大学院生

このプログラムで最も印象に残ったのは、福島でホストファミリー宅に滞在できたことだと思います。ホストファザーが地元の歴史文化を展示する博物館や温泉に連れて行ってくれて、一緒に地元の（節分の）イベントにも参加しました。しかし、何よりも良かったことは、日本人のホストファミリーと時間をかけて、沢山話すことができたことです。私たちの会話のテーマは、政治から観光、経済、ビデオゲームにまで及びました。ホストファミリーのご夫妻と知り合えたことこそが、今回の交流の中で最も印象に残ったことであり、これ以上に素晴らしいホストはないと思いました。

◆ 大学生

自分と同じ世代の会津大学の日本人学生たちと出会い、交流することができたことが本当に楽

しかったです。

日本の伝統文化である絞り染め体験も良かったです。長い歴史と伝統、職人技について学び、体験することができました。一つの作品を仕上げるまでに、どれほどの労力と細心の注意が必要なのか、体験して初めて理解しました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

前沢集落の散策で、伝統的建造物や集落雪景色を楽しみ、集落の家族の子ども、区長さん、観光客との触れ合いができました。比較的時間に余裕があったので、スノーシューウォーキング、雪下ろしなど雪国ならではの体験をしてもらい、郷土料理『ばんでい餅』づくりや、囲炉裏で岩魚の塩焼き体験などもできました。

スマホやタブレットを使用し、お互いの家族の事、仕事の話など交流を楽しみました。集落の四季の様子を映像で紹介し、大変喜んでいただきました。穏やかな天気で、何事もなく無事過ごして頂けたことでホッとしています。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2024 年 1 月 31 日（LinkedIn） カケハシ・プロジェクトに参加し、日本で素晴らしい時間を過ごしました。会津大学の学生と交流を深めたり、外務省から説明を受けたり、パナソニックセンター東京を視察しました。日本は至る箇所に革新的な力が溢れていて、今回の訪日を通して私は政府レベルでも国民レベルでも「日米協力の未来は明るい」と実感しました。	2024 年 2 月 4 日（Instagram） 福島の方に来ることになるとは思ってもみませんでした。カケハシ・プロジェクトのおかげで福島を訪問しホームステイすることができました。自分の日本研究をさらに深化させるためにも、必ずまた戻ってくるつもりです。



2024 年 2 月 3 日（福島民報）

会津大の取り組み学ぶ

外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」の訪日団は 2 日、会津若松市の会津大を訪れ、日本や本県の文化に理解を深めました。（中略）若手研究者 17 名と会津大生 22 名が交流し、「鶴ヶ城」「赤べこ」「大内宿」などのキーワードを挙げ、特長や魅力を紹介しました。世界の人々に幅広く知ってもらうため、どのような発信が効果的かなど意見を交わしました。

2024 年 2 月 3 日（参加者所属のコーネル大学の HP より）

言語学専攻の学生が、外務省が主催する若手研究者の訪日交流事業「カケハシ・プロジェクト」に参加しました。

日本で 8 日間、伝統的な染め物体験、外務省や慶應義塾大学教授との意見交換・講義、会津大学との学校交流、会津町でのホームステイなど、様々な文化体験に参加しました。

今回の旅を振り返って、参加者は自分の経験が研究の目標に影響を与えたと確信しています。

「私は以前から方言学に興味がありましたが、訪日経験で、アメリカ英語だけでなく、日本語の領域でも方言学を追求したいという思いが強くなりました。」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

全 3 グループが発表（訪問地：東京都、福島県）

グループ 1



グループ 1（コーネル大学 5 名、シンクタンク関係者 1 名）

【訪日中の学び】

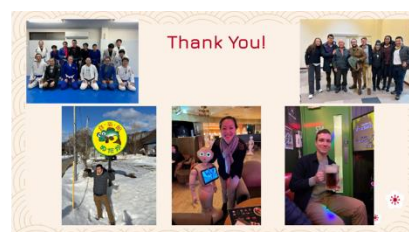
実際に訪問し経験することで、日本に対する先入観が大きく変わりました。訪日前「福島を訪問する」と知った時は、まず原発事故が思い浮かび不安もありましたが、実際に訪問しホームステイを

してみると不安は一気に消し去られました。人々は優しく、地元の農家や JA は盛況で、食べ物は美味しく、なかでもトマトの美味しさは格別でした。地方は高齢化していましたが、日本人が大切にしている、人との助け合いや支え合いの良さを実感できました。

【アクション・プラン】

- ・ NYU（ニューヨーク大学）でロボットの服を制作しているので今回のカケハシ（染の里おちあい）で学んだ日本の絞り染め伝統技術を取り入れた服を制作し、伝統と先端技術の融合をテーマに、同大学にてファッションショーを行います。
- ・ 4 月半ばまでに、ネット上で話題になる可能性のあるトークを含めてブログやデジタル日記を作成して、日本や日本研究に関心のあるコーネル大学生や一般の方々に向けて、今回の体験や気づきを一覧にして見やすいように共有します。
- ・ 日本のビジュアルアート（絵画や工芸品など）に関する動画を作成し、本年 3 月または 4 月に YouTube のようなサイトにオンラインで公開します。今回の訪日で感銘を受けた東京国立博物館の着物や茶器に関連するものを一本、染め物工房での体験まとめたものを一本、計 2 本の動画を作成予定です。
- ・ 言語学専攻なので、3 月半ば～4 月上旬の間に、食材等の準備をして、コーネル大学のアクティビティ・ルームにて同大学生対象に、「日本語で教えるお寿司づくり」というワークショップを開催します。お寿司の作り方はホストマザーから教わりました。ワークショップの冒頭では、ホストファミリーとの交流経験談なども含めたカケハシ・プロジェクトの経験を共有します。
- ・ 安部公房『砂の女』に関する講義、アラン・レネ監督の映画『ヒロシマモナムール（邦題：二十四時間の情事）』の視聴を私の授業で実施します。その際にコーネル大学の学生の履修者に対し、自分の日本文学・文化への思いが、今回のカケハシでの体験を通じて、いかにポジティブな方向へ変化したかを語り、カケハシに参加することを学生たちに勧めたいと思います。私は将来、国際訴訟・仲裁を担当する弁護人になりたいと願っていますが、今回の体験は国際協力や理解にもきっと役立つと信じています。
- ・ 3 月半ばを目途に、「カケハシ・ブラウンバッグ・レクチャー」と題し、シンクタンクの同僚を対象にランチタイムミーティングにて、30 分の講義と 30 分の質疑応答のセッションを企画します。今回のカケハシでの経験と収穫について、特に一番の収穫であった「人的交流の力を実感できたこと」を共有します。

グループ 2



グループ 2（ジョージ・ワシントン大学 4 名、シンクタンク関係者 1 名）

【訪日中の学び】

我々が最も興味ある日米安保政策とパブリックディプロマシーといった政策分野から、先端技術

（パナソニックセンター東京、会津大学）や伝統文化（東京国立博物館、南会津でのホームステイ、絞り染め体験）といった諸分野を網羅した有意義なプログラムのおかげで、様々な学びを得ることができました。初来日ではなかった参加者も何名かいましたが、日本の一般家庭での宿泊は全員初めての経験で、その歓待ぶりに心を打たれました。

技術革新分野における企業や大学の役割も初めて知ることが多く、特にパナソニックの沿革や松下幸之助の詳しい功績は知らなかったので、勉強になりました。外務省のブリーフィングは視野が広がるような内容でした。

【アクション・プラン】

帰国後 3 か月以内にジョージ・ワシントン大学の在籍者は、同大学のウェブサイト上でブログ執筆をし、学生やスタッフへ今回の経験や気づきを報告します。

さらなる共有チャンネルとして、「日米関係について」や「日米関係の重要性について」のプレゼンや講義、日本に関するフィードバックなどを実施します。

そもそもカケハシ・プロジェクト自体が、あまり学生に知られていない現状から、同プロジェクトの知名度を上げるべく学生たちを啓蒙していきたいと思っています。

シンクタンクでは、スタッフと学生たちとのディスカッションでカケハシの素晴らしい経験を共有する予定です。

グループ 3

 Johns Hopkins University School of Advanced International Studies Young Researchers Slot 2 January 21st - February 1st, 2024	 Highlight: Creating an incredible flower design! *Dedicated a very long time to creating a beautiful flower design, which involved a lot of creativity.	Action Plan: 1) When our members are abroad, we will share with our friends and family back home, highlighting Japanese culture, technology, history, and experiences. 2) John's Hopkins Center for East Asian Studies is a knowledge center to promote our findings from visiting, to make them available to students, and discuss the importance of research like this in the academic world. 3) We will use our research and social media skills to create a Twitter (X), Instagram, Facebook, LinkedIn, and YouTube channel with our friends, network, and follow-up public information. 4) We will group findings from "Hello, World!" for giving gifts to those who study in Japan.
---	---	---

グループ 3（ジョンズ・ホプキンス大学 6 名）

【訪日中の学び】

日本社会は、相互信頼を基盤に成立している、安心安全な社会でした。

新幹線では乗車時に手荷物検査がないことに驚きました。車内には民間の警備員が時々巡回してくるだけで、それでも人々が安心だと感じられることがすごいと思いました。

また、日本人がお互いを尊重し合う姿勢には感銘を受けました。バスの運転手などに対しても常に感謝の意を伝えているのが印象的でした。

国際関係を専門分野としているので、しばしば大きな問題を大きな視野で捉えることに焦点を当てがちなのですが、今回、日本の地方である南会津でホームステイをしたことにより、日本語を適切に操ってコミュニケーションをすることは叶いませんでしたが、面と向かって楽しく笑いながら片言でも一緒に料理をつくったり、ゆっくり温泉につかったり、そうした体験を経て、国際関係においても対人関係や風習、人々の日常生活といった角度からもっとミクロな視点を持つことも大切なのだと気づかされました。

【アクション・プラン】

帰国後すぐは、カケハシ・プロジェクトのプログラムやホームステイ体験を紹介しながら、思い出

や冒険談を友人や家族と共有しますが、3か月以内を目途にジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究センターにて、教授・講師陣や学生対象にランチミーティングを開催し、訪日の成果を発表し、私たちが築いた日本との繋がりを語り、「没入型の体験ができる旅行、イマーシブトリップ」の重要性について話し合いたいと思います。また同センターには訪日したい学生が沢山おり、特に若い学生たちにカケハシ・プロジェクトの存在と重要性を伝えていきたいです。また、X や Instagram、Facebook のみならず Telegram や LinkedIn といった幅広いネットワークを駆使して投稿を続け、私たちの経験や気づきを多くの人たちに共有します。学内新聞の編集者をしている者もいますので、SNS に加えて学内新聞のオンライン版へも流用可能です。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）